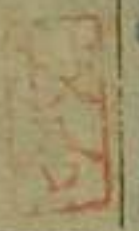


裝束要領鈔

尾

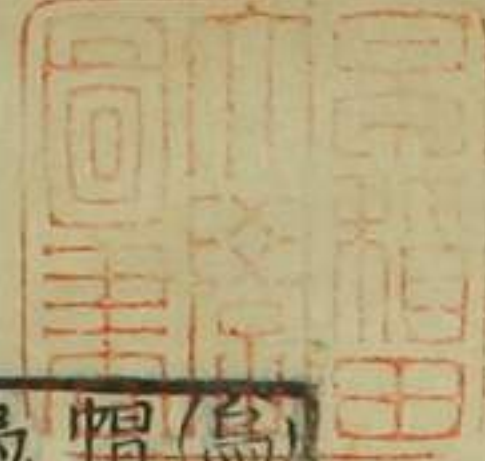


73
6326
2





子孫永保  
共三卷  
雲煙家  
藏書記



烏帽唐朝有紗帽之制是本邦烏帽子也乎和名鈔烏帽兼名苑云帽一名頭衣注烏帽子俗訛烏爲烏今按其著用之始不分明蓋嵯峨朝延弘仁九年有男女衣服皆依唐法之制始于此時乎天武朝延有漆紗冠之制充之者非也是正今冠盤觔也乎

男官装束要領鈔下

狩衣之具

烏帽子

揚家。清花并中院。三條正親町。三條西小乃家。おは立烏帽子着用にけり。多分狩林家。名家。諸大吏家。は多分十六歳まで。立念は。多分折烏帽子を多し。多分鷹狩或蹴鞠。馬上乃時いつても。風打の。或抄の。或は額の。或は右眉。

去五味均平蔵

装束要領鈔下



73  
6326  
2

装束要令金下

あつひハ諸眉小諸眉片眉のあつひり大抵  
上皇ハ左眉持家ヲ法眉諸家ナシホ家ハ  
小法眉ハ後右眉ナリ地下ハ片眉ともし  
但家ノ此故実ありて志わて定るる所  
ひハ点ほりハの名もあつひりハ  
今世ハえてハ差別アリ

懸緒 付組絛

衣冠の部小志ありぬ

布衣 或用狩衣字或又  
用襦袢衣鴈衣字

布衣和名鈔布  
此問云舊衣  
和訓加利  
奴

或問舊衣始干  
何御宇哉答未  
見國史若弘仁  
以來用之乎據  
野行幸記

宿老袖結事園  
大曆延文四年  
正月廿五日公  
賢公遣經頭卿  
返事曰抑狩衣  
結事組分紺絛  
之外宿老之躰  
不兼及候但就  
狩衣色白組分  
毛用事哉人

冬ハ裏あり狩衣云之ヲ夏ハ襦此持家ナリ  
但紗のりハ冬ハ同季通用して用ひらる又  
右記延喜乃可見凡五位以上ハ織物六位以下ハ文  
定る制ナリ然と云今世六位の人ハ皆  
織物乃狩衣を用るものハ非なり文色志わて  
定るは元年の時ハ紅梅萌黄の浮文盛年  
ハ堅文あり浮文ハ繁く堅文ハウスヒラ文ととも  
袖結ハ十又未滿毛抜形着る人ハ薄年乃組  
前黄紅示ヒは志爲の打交濃紫の旁へ次より

装束要令金下

二



桃華葉狩衣  
大納言と着用  
すなり

薄衣 裏のうすきと、次、清黄乃組なり裏の表のふ  
お好しは所名何の狩衣、表裏を色各別なり  
又紗のうすきぬ、鱧とむのりひくして前後の  
すそひむのり、次袖結を白糸とよりて右より  
ねま二筋おろくともとに但夏冬通用乃  
事右記取見なりいぬへ通用の狩衣とは  
紗のかりさぬ小裏付なりと見ひきなり凡  
狩衣ハ大納言已下着用のよりなり武家よお  
てハ徳大寺着用乃より也公武御制各別極

或問有名狩衣  
以其表裏色織  
用單狩衣之時  
其経緯如何答  
以裏絲為經以  
表絲為緯乎是  
從緯覆經之理  
也以松重與藤  
重知之猶可尋  
挑丈師

尺二寸名何の狩衣より梅 表白裏蕨芳花山  
院右大臣忠定公

說正月十五日迄年若人着用之由也一條禪閣兼良公御  
說自十一月至二月今按号百菊九十月用之互色相通 柳 表白裏青  
若人浮織物壯年以後人表練貫忠定公說自正月至四月祭日 櫻 忠定  
著之兼良公御說自冬至春今按四五月号卯花用之亦色相通 櫻 公說

表白裏二藍兼良公御說表白裏赤花又裏蒲萄春用之 櫻 三條  
三條家說表裏白或裏紫号百梅有之此事欤 櫻 三條家說

表萌木裏紫春用之中年以後不用此色若年人用之 櫻 三條  
忠定公說裏二藍兼良公御說裏赤花各表色一同 櫻 三條家說

表薄蕨芳裏濃蕨芳若年人用之中年以後不用之 花山吹 三條  
忠定公說表薄色裏二藍兼良公御說表蕨芳裏赤花 花山吹 三條家說

表黄朽葉 織物タテ 裏紅老人不用之忠定公說表タテ 裏黄 裏山吹  
裏黄春用之兼良公御說表薄朽葉裏黄只山吹トモ号之 裏山吹

三條家說表黄朽葉裏青忠定公說表黄 藤 忠定公說表タテ 裏青  
裏萌黄若年人春用之兼良公御說表黄裏 藤 黄自春至四月兼良公御

說表薄紫裏 卯花 四五五月 色同柳 若鷄冠木 忠定公說表裏共薄青  
青二四月 四月著之諸抄有名無



色カキツク 忠定公説表二藍裏萌木四五月著  
目 **杜若** 之或書表萌木裏薄紅梅有之如何 **盧橘** 忠定公説表タテ黄裏青四五月兼良公

御説表朽葉 **菖蒲** 忠定公説表青裏濃紅梅四五月著之 **棟** 忠定公説表薄色裏青四五月著之諸説同之 **女郎花** 忠定公説表タテ黄裏青

重青自六月至九月 **瞿麥** 忠定公説表薄紫裏青自六月至八月 **桔梗** 忠定公説表二藍裏青 **萩** 同説表薄紫裏青自六月至八月 **紫苑** 忠定公説表薄色裏青

五六月著之 **青紅葉** 同説表黄裏蘗芳 **青紅葉** 同説表萌木青自六月至九月 **龍膽** 忠定公説表青裏朽葉

至五節兼良公御 **白菊** 九月十月 **黄菊** 忠定公説表黄裏 **龍膽** 忠定公説表青裏朽葉 **移菊** 忠定公説表薄紫裏青兼良公

同説表蘗芳裏青 **松重** 三條家説表萌木裏紫忠定公説表青裏赤花四季 **海松色** 忠定通用年少人至十五歲著之兼良公御説表青裏紫

表色青黒而如海松裏白八宿老 **凡此等の文と着用乃** 人著之兼良公御説表萌木裏青

時各々れくの文と用り事通法乃り

より此外 **枯色** 又号黄青忠定公説表黄青自十月至翌年三月兼良公御説号枯色表白裏薄色 **薄**

**青** 忠定公説表裏同中年以後用 **二藍** 表裏同色 **薄色** 忠定公説者不謂夏冬必 **朽葉** 忠定公説表タテ黄裏黄令按 **檜皮** 三條家可用生裏也 **青朽葉** 忠定公説表赤朽葉色タテ **香** 三條家説四季通用十

同或裏花田忠定公説表紫裏同老人ハ用 **花田** 表裏同老人ハ **赤色** 三條家説若年壯年人等用之四季通用忠定公説 **比金青** 表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

人ハコカレ香ト号ニテ下力キヲ薄紅ニシテ黄ヲセテ染之所詮 **花田** 表裏同老人ハ **比金青** 表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

濃香也織物ニテ着スル時ハ經緯トモニ濃香ニ染テ織之裏紅老人ハ **花田** 表裏同老人ハ **比金青** 表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

經香緯白糸仍文白ナリ浮織物浮線綾長年 **花田** 表裏同老人ハ **比金青** 表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

人不用之唐綾并薄物練薄物用也老者白裏 **花田** 表裏同老人ハ **比金青** 表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

用 **赤色** 三條家説若年壯年人等用之四季通用忠定公説 **比金青** 表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

忠定公説タテ黒青又キ黄或説 **裏濃蘗芳** 三條家説表薄蘗芳似樟櫻四季通

タテ黄又キ黒青云是定説欽云

表裏同老人ハ

表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

表裏同老人ハ

表赤裏二藍年少人著之兼良公御説表タテ紫

表裏同老人ハ



用 白色

三條家説若年人ハ浮織物浮線綾練薄物等也中年以後唐綾和綾頭文紗ノ薄物用之

裏中年以後生 け等の敷其文不定各表裏又目乃事

家く縁々意巧區くめて一撮のへじ

從古記の不見色目さ函くけりとのを略

又白裏乃かりさぬはいは雖衰老人憚

形藏おぬ人ハ月ひさ死やけいさるさ

と近世此年の人も官にりて着用し給ふ

先又布のかりさぬハ 上皇極熱の比著御下

も中々依久依時恙利れりかり給ふゆり

とる人の着用さるるに記し或記しんり

志りハ自身も着用志りて事ぬや

腰帶 コシオビ 或云宛腰

狩衣の久に給くさ切と用也但白裏の狩衣

悉用乃人ハ白帯と用り恒例乃りなり

衣。單并大帷

晴の時に衣并單等と著し尋常ハ大帷白用之

狩衣乃衣と直衣何れハ衣冠乃時にあか

但五月九月仕年の人生衣裏表生 ヒチカサチ 拾重と用也

拾重 夫木集  
夏衣光俊朝臣  
世とやす民乃  
こつひかたり  
及てむのうさね  
ハきり人もあ



皆多しるす月ひらるる多分女郎花蕚芳なり也  
老人大将装束抄鈔等白衣或抄り足くすり又単紅帷白衣冠  
乃何し同しを代夏ハ多く単に帷計月ひらる  
袖單にりく着用乃りく也又尋常ハ單帷と  
略して月らきさうよりなり

指貫

色目衣冠の部小くり

下袴 付腰次

衣冠乃飾り志おしぬ

少刀チイサタナ

狩衣帯劔例保  
延五年二月十  
日兩院雪見御  
幸衛府之人皆  
帶劔見劔抄頭  
畫

武家小おわてハ供奉乃時狩衣着用何りく  
路途の間或鞘巻或帯れ刀に少刀を月ひら  
色殿中出仕しハ少刀のを月ひたまふり  
承之儀ハ雨見おし公家ハかりさぬぬ  
是を月ひ給しハ但從者ハ太刀をりしり  
又晴シの御幸乃時エフ衛府の人帯劔先例何り

蝙蝠

衣冠乃部ぬ志新ぬ



浅沓并緒太

衣冠乃始み志引也

一 枳家。清花并。中院。三條正親町。三條西等の家  
羽林家名家の勝劣差別いふは

枳家とは近衛九條二條一條鷹司五家  
なり藤原良房公忠仁公是也人臣攝政の盪觴  
しる同基經公昭宣公是也是開白乃寂初り

鑿定公世  
左大臣正三位

冬嗣  
權中納言三位

長良  
攝政大臣從位  
兼三官

良房  
攝政關白大臣  
基經 從一位  
實長良男

清花 如字華族  
通稱也。北史  
袁翻傳以名家  
子歷任清華

鑿定公世  
左大臣正位 森長從位  
師輔 公季

權大納言從位  
公實

太政大臣從位  
實行 三條祖

權中納言正位  
通季 西園寺祖

左大臣將從位  
實能 德大寺祖

よりより山來枳政用白に玉ふふまを  
先途より多也を大臣の大將兼任しふふと  
いふ枳政用白のてハ親撰とていふは也故  
号具早親房 森長從位 森長從位枳家由也 頭房 雅實 森祖  
清花は久我三條轉法輪西園寺德大寺花山院  
大炊御門今出川又号菊亭等の敷也 近世廣幡醍醐 等之家此列云皇子  
皇孫といふ親王乃 宣下なく源姓を賜て  
大臣の大將ののり或ハ枳家の清息といへ  
とも枳政用白乃先途もかく大臣ハ大將

具早親房 森長從位 森長從位

攝政大臣 森長從位  
從一位 家忠 花山祖  
師實 權大納言正位  
號五極 經實 大炊祖

菊亭

近世廣幡醍醐 等之家此列云



久我相國雅實公曾  
内大臣正三位  
通親

大政大臣位  
通光 兼正統  
大納言位  
通方 今中院祖

實行公孫  
左大臣正三位  
實房

大政大臣位  
公房 三條正統  
權大納言正三位  
公氏 三條正統祖

公氏卿公世  
内大臣位  
實繼 三條正統正統

内大臣位  
公豊 三條正統正統  
權大納言位  
公時 三條正統祖

乃其のほり多ふ家く也英雄の家なれハ  
稱美有りて清花と稱い又公達家也と  
花族とも稱い也

中院三條正親町三條西此三家ハ次第昇進  
志ありて大臣に任じ給ふとて大將  
兼任し多ふハ故に俗号大臣家此ハ  
法家とて邂逅ハ大臣拜任乃例の如く  
有りこととも通例にあらずれと大臣家と  
稱せざるなり

(名家)漢司馬遷  
傳名家師古注  
名家者流出於  
禮官

羽林家とは侍從より左右近衛中少將と經歷  
して次第昇進し給ふ家くと羽林家と稱い  
を坊府の唐名と羽林と稱い也蓋羽林家ハ  
中には勝方有りて或以大中納言為先途或  
以系議散二三位先途より多ふ家く有之禮中  
中御門号松木四是也中山等の家は羽林家の  
家とあり又三條水無瀬兩流を昇進羽林家  
なり

名家とは儒門といふ其中左右辨官有大中少



藏人と経歴して次第昇進する者も有り  
諸名家も亦辨官を以て経て昇進乃  
家もありといふは流儀各別なり

一立烏帽子と風折と各別は小町の謡  
屋々立立はと風折なりとぬ乃袖とち  
かついこと事いといや

續世継云ひいえやいあまくぬか  
まもあがりけるなまいけはうきま  
えはうきうきめえやうきうき

引立烏帽子保  
元物語條殿御  
轉義朝御前ニ  
召ル赤地錦直  
垂折烏帽子引  
立ワイタテ註  
太刀ハイタリ

かゝりてゆめまといふ又かゝる志は  
引立えやうきうきあがりぬか  
ぬかかゝるい志は小町のうたひも  
らうきまや近世烏帽子あまくぬき  
各別小なりいふといはえ作

一布衣とすて和訓うらさぬとよき  
官位有き人の着用ハかりさぬといひ  
いふ布衣といふやうに承は各差別有  
是は假令上下をわらうとあくと  
是は假令上下をわらうとあくと



百練抄保元三年三月近日藏人五位等連署訴申有文狩衣停止由仍被許

狩衣といひても布衣といひても裁縫  
いさかろりろりふい 院中あき  
布衣始とり事有之は 御讓位の位  
上皇よりわく清狩衣著御乃款式と  
志ろり時より布衣といひてもかりとぬ  
といひてもとろりろり次は又青侍乃  
着しは太神文といへとも希有に文  
とねろりいふろり五位の人も地下は文  
の定ろりろり世も也況書侍とや然る

色ろりろりろり承りぬ

一狩衣と着しは茶内出仕事といふ

堂上方衣冠垂衣より下の服と着し茶

内出仕の事ろりろり但清幸之時供奉之

堂上方狩衣着用しろりろり出仕之儀

ろり又諸家乃侍雑色布衣と着し主人

相従ひ系入するろり庭上までの儀中く

子細ろり但不入日見禁秘御鈔華月華等門之由と制あり

一頭職といふ

中右記寛治八年閏三月八日近曾有新制布衣烏帽子者不可入陣中



きしつら目くらたる官と頭職も殿官  
せとらひなり

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

直垂之具

烏帽子

大概風折の

懸緒 并組懸

おろしおろし

直垂 并布直垂

堂上ハ練精好等乃直垂精好ハ龍冠之客見延重格制なり武家方侍従以上

とかくれゝたのうも也ま色大概黒紅白を

木蘭地といふ多れ由なり其外色くあり

直垂(武士)服之  
由見或秘記蓋  
其盪觴不分明  
可考

木蘭地僧尼令  
義解謂木蘭黃  
椽也



紫萌黄紅等直  
垂於武門御制  
服之由以是雖  
狩衣憚此三色  
之由也蓋近世  
紅之外多被用  
之云

但紫萌黄紅等ハ 將軍家清代、清着用乃  
色なりし憚之云然其陽明の清家ハ精好の  
紅乃直垂ハ着用のりかり又布直垂ハ武家  
五位法衣、持家清毒の諸大夫或ハ地下の法司  
官人事にり着用とせりて直垂ハ藝乃時  
乃事也布直垂俗小是と大紋といふ大かり  
紋付よりゆへや素襖袴との習りぬ胸紐  
打組と華緒との遠かり

同下

下ハ総のり此長縮あり色上下にあり但

長縮ハ薄縮也後世用本服名

腰紐ハ白練あり縮直垂布直垂との小裁縫器

事なりしひりハ先大口と著り次はひりと

むしれみかきにて著りしう毎に直垂此下

俗名下總守貞頼

と著りしう伊勢下総入道 宗五 書み足と

しり

少刀

堂上よりハ直垂に少刀の事あり但陽明の清家  
よハ代々清例として少刀と月ひらふを子細







或曰萬松院殿  
義晴御時惠雲  
公菴家被進  
院殿菴家被進  
紅直無少刀之  
例也云

近湯殿（紅）直無少刀被進ひひりし例  
らして用ひ給ふらなりあふら子細  
な事よとい

一 褌ケといひ

褌とは急度晴よといひ又平生乃事  
めといひ中なる事よといひ晴褌ハレケ尋常  
と三つよアりウりクよク作

一 白太刀黒太刀と事いひ

白太刀といひ銀にくり銀乃打敷めして目貴

おし或ハ家の文とほき帯執オビト菖蒲華を  
表向袴義に用へさうりなり黒太刀は  
鞆サマゆるか〜はふサマ敷とけく黒くわら  
かおご志シ〜とさうりけりあはらおこ  
〜目貴我家の紋を焼付け〜帯執  
菖蒲皮柄もまらばうでぬれつ〜と黒  
太刀といひ〜伊勢下総入る志シ〜  
〜書み入る〜



*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

召具装束

褐衣 布衣  
白張

武官乃五位、五位、殿上人、行幸の前駈或ハ節會の

警固の日ハ、闕肢袍と着行幸之時、帶弓、箭、卷、纓、

纓オモケ綾オモケして隨身と召具ハとハ隨身装束ハ

冠細綏褐衣ハチエ右ハニユ近衛方文左近衛方或獅子丸或尾長鳥袴左近

或或、藤、芳、或、二、藍、右、近、衛、方、或、朽、葉、或、崩、木、等、也帶弓、箭壺、胡、錄帯、劔セ、一、ヒ、左

右、中將の隨身二人、左右、少將乃隨身二人、左右、侍、佐の

隨身二人、是定例なり、外尋常之儀、みは、隨身

の、布衣乃、青侍、白張の雜人、召具一、つゝなり



隨身之具一冷少時を袴布衣白法具一にまゝ  
事勿備なり

衣文雜色可覚悟條々  
一御主人汚装束法着用乃事一何れも五三日に  
皆具損失之有無可改之事  
一御懸緒別み用之——并法袍も同く又乃系  
且又針ぐさみ等可用意事  
一御装束法着用又ハ汚脱之時汚主人と不向北極小  
可知方角事  
一御冠并汚装束不向北方不汚跡事  
一武家之法方束帶衣冠法着用之時かかき袖と

衣文雜色可覚悟條々

- 一御主人汚装束法着用乃事一何れも五三日に
- 皆具損失之有無可改之事
- 一御懸緒別み用之——并法袍も同く又乃系
- 且又針ぐさみ等可用意事
- 一御装束法着用又ハ汚脱之時汚主人と不向北極小
- 可知方角事
- 一御冠并汚装束不向北方不汚跡事
- 一武家之法方束帶衣冠法着用之時かかき袖と



ごらてまゝくぐり公家めくも津所作多き  
御人此心得あるまかり

*[Faded bleed-through text from the reverse side of the page]*

五位五位装束之具并同音之類

家從壺井  
義知

書志類より添削とありぬ尤有無もの也  
誠より此色に染へる人乃染内と道はき  
少とありん

元祿十二年三月十日きりさの位藤原朝臣御判



